

# 県立総合教育センター・スポーツ研修センター研究発表会講演会

## 研究発表会（分科会）のご案内

- 日 時 平成21年 8月3日（月）  
午前9時30分～午後4時30分（受付 9時～）
- 場 所  
埼玉県県民活動総合センター・小ホール等（伊奈町）
- 内 容  
講演会 午前10時～  
研究発表会 午後 1時～
- 申込み 締切り 7月17日（金）

[こちら](#)からも電子申請にてお申し込みいただけます。

問い合わせ先：県立総合教育センター 企画・指導運営担当 TEL：048(874)8131

### ● 研究発表会（第1～8分科会）

#### 1 読解力を育成する教科指導に係る調査研究（中学校）

今、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力(PISA 型読解力)」が求められています。その育成には、学校の教育活動全体の中で、教科等の枠を超えた共通理解と取組が重要です。そこで、2年計画の完結となる昨年度は、中学校の各教科で調査研究を進めました。今回は、その中から、**理科、技術・家庭（前半の部）、国語、美術（後半の部）**で研究成果を報告し、その授業の在り方を具体的に提案します。

#### 2 教科等で考える異校種間の連携の工夫に係る調査研究（小学校、中学校、高等学校）

子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせるためには、教科等で小中高12年間を見通した体系的な指導方法を確立することが重要です。そのためには、各校種の特性を踏まえた異校種間の連携に基づく様々な工夫が必要になります。2年計画の完結に当たる昨年度は、算数・数学、理科、音楽、図画工作・美術、美術・工芸、家庭、総合的な学習の時間で調査研究を進めました。今回は、その中から、**算数・数学、図画工作・美術、美術・工芸（前半の部）、理科、総合的な学習の時間（後半の部）**で研究成果を報告し、連携の工夫について提案します。

#### 3 学校における緊急支援体制の確立に関する調査研究

学校における事件・事故等の際心配される児童生徒の心的外傷後ストレス障害（PTSD）等を予防し、健全な学校生活を維持していくために、危機対応の一連の流れの中に心的ケアを明確に位置づけ、2年間にわたる研究を進めてまいりました。学校の視点から①学校運営正常化に向けての緊急体制プログラム②児童生徒の心のケアのための心的ケアプログラム③保護者に安心感を与えるためのプログラムとして3点にまとめたものを、活用できる資料等も含めて報告します。

## 4 特別支援学級の視点を生かした学級経営の在り方に関する調査研究

小中学校、高等学校における特別支援教育の取組は、当初、特別な支援を必要とする児童生徒への「個への支援」が中心でした。しかし、実践が進むにつれて、特別な支援を必要とする児童生徒も含めた学級経営の工夫や授業改善が重要なことがあらためて認識されるようになりました。

そこで、当センターでは「個への支援」と「支援を支える学級づくり」の両面から各校の課題や取組について調査を行い、これからの学校に求められる学級経営の工夫についてポイントをまとめました。

## 5 「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方の調査研究

家庭教育は、教育の出発点であり人格形成の基盤を担うものです。この教育を充実したものにするためには、親は教育する内容を知り（知識）、教育の仕方を知り工夫（知恵）ことが大切であり、子どもは「親となる準備」をし、親への理解を深めることが大切です。そこで、「家庭教育のあり方」などについての意識調査を実施し、結果を分析しました。この調査をふまえ、効果的な「親の学習」プログラムの実施方法を検討し、作成した実施計画、指導計画を紹介します。

## 6 情報教育推進担当による調査研究

先進的技術を用いた、情報教育およびICT活用を推進・発展するための調査・研究を行いました。（対象：小・中・高・特）前半は、平成20年度調査研究の全体概要と、デジタル教材（理科ねっとわーく等）活用に関する研究、セマンティックコンピューティングの教育利用に関する研究およびe-learningによる学習支援の研究について報告します。後半は、平成20年度調査研究の全体概要と、オープンソースを活用した学習モデルに関する研究（ロボットを活用した問題解決能力の育成・CMSを活用した論理的思考力の育成）、ネットワーク活用モデル事業について報告します。

## 7 農業を核とした持続可能な開発のための教育（ESD）に関する調査研究

「環境」「農業」「自然」をキーワードに、「持続可能な社会」の実現に向け、環境教育、食農教育などを中心とした、高等学校における「持続可能な開発のための教育（ESD）」実践プログラムの研究開発を行いました。

具体的には、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を学校教育に導入するための仕組み作りについてのポイントをまとめるとともに、「農業を核とした持続可能な開発のための教育（ESD）」について研究協力校で実践した事例を紹介します。

## 8 スポーツ研修センターにおける調査研究

- ・「体育授業改善に向けた指導と評価に関する実践的研究」（学校体育担当）  
体育授業の改善に向けて、児童生徒の発達の特性を考慮し、ネット型ボールゲームの学習として「プレルボール」の教材づくりとその有効性についての研究を報告します。
- ・「健康・体力づくりのための運動プログラムに関する研究」1年次（生涯スポーツ・相談担当）  
高齢者がバランス能力を向上させるための運動プログラムを普及させることを目的とした2年継続研究です。バランスアップ体操を基軸に調査研究を行いました。実際にバランススティックの体験をしていただきながら報告します。

※前半の部・後半の部に分け、同じ内容で2回実施します。ただし、「1」「2」「6」は、前半の部、後半の部で内容が異なります。参加申込みは、案内文書を御確認の上、所属長をととして県立総合教育センターまで。